

二輪車を
取り巻く
環境

二輪車の利用環境デザイン

効率的な交通社会を目指して 要約版

二輪車は、省エネルギーで経済的な乗り物です。二輪車を積極的に活用することで、環境にやさしい効率的な都市交通に寄与します。

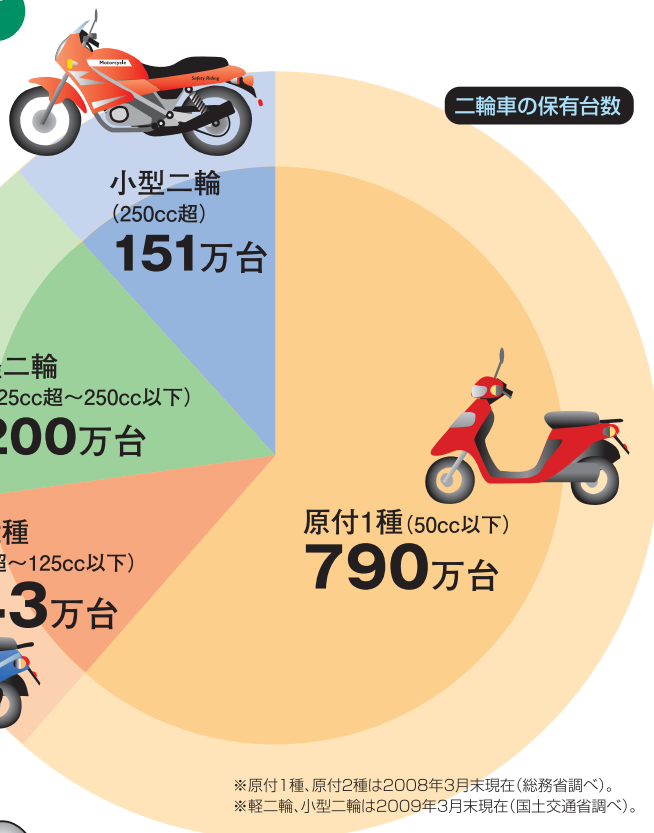


※「二輪車の利用環境デザイン」に関する詳しい内容は、
当会ホームページ (<http://www.jama.or.jp/>) をご覧ください。

約1,300万台が市民の足として活躍

原付1種と原付2種で7割以上を占めます

二輪車の保有台数は、総計約1,300万台。
 そのうち原付1種が約790万台で、
 原付2種が約143万台。
 両方で全体の7割以上を占めています。



実用目的 = 市民の足



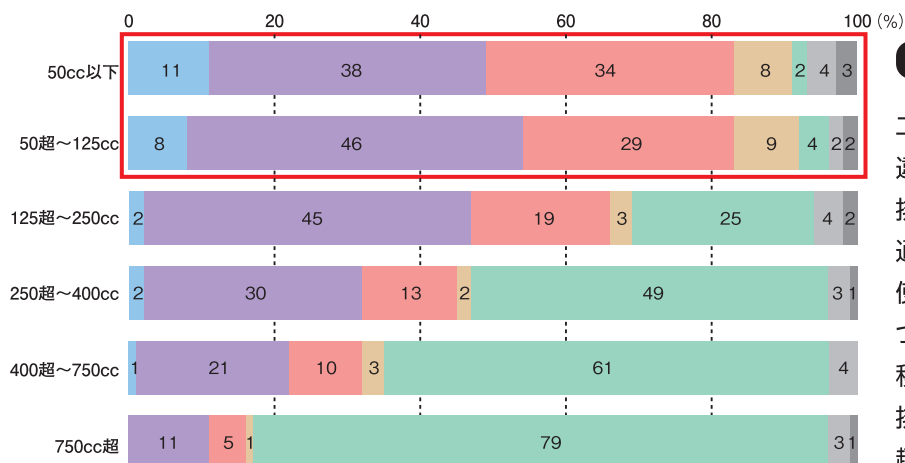
通勤
通学

買い物

原付1種と原付2種は
主に実用目的で
使われています。



通勤・通学、買い物など日常生活での利用が多い



二輪車の使用用途

二輪車の使用目的は、排気量によって
違いが明らかです。
 排気量の小さい原付1種と原付2種は、
 通勤・通学、買い物など、ほぼ日常生活で
 使われています。
 つまり、二輪車の大多数は、市民の実用的な
 移動手段として普及しています。
 排気量の大きなものほど、ツーリングなど
 趣味の領域で使用されています。

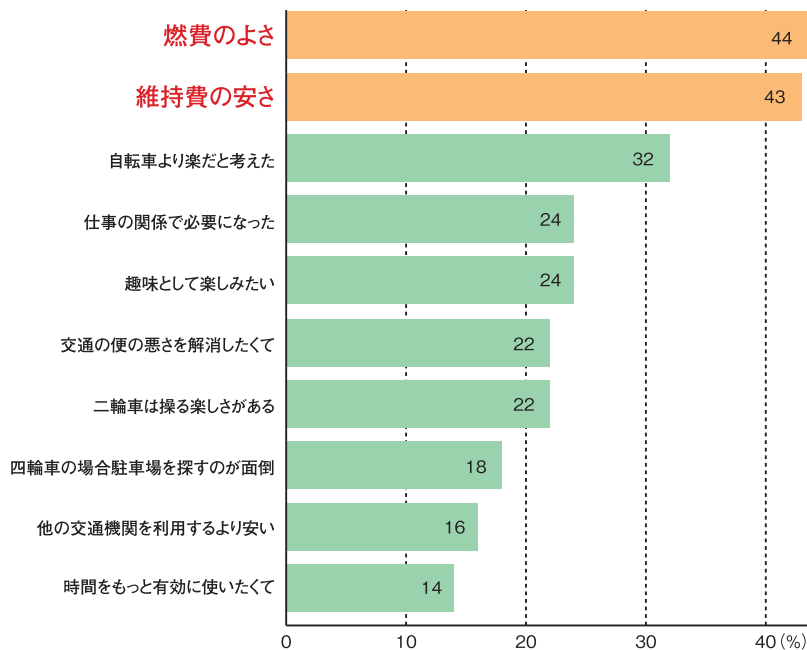
〔2007年度二輪車市場動向調査〕日本自動車工業会

■ 通勤・通学 (駅まで) ■ 通勤・通学 (会社・学校まで) ■ 買い物・用足し ■ 商用・仕事 ■ ツーリング ■ その他 ■ 無回答

二輪車は環境にやさしく経済的な乗り物

ユーザーは燃費のよさ、経済性を重視して利用

ユーザーが二輪車を再購入する理由



※二輪車の新車を再購入したユーザーに購入理由を聞いた結果。
「2007年度 二輪車市場動向調査」日本自動車工業会

二輪車を使っていて、さらに買い換えるユーザーは、再購入の理由として「燃費のよさ」「維持費の安さ」を挙げています。燃費のよさはすなわち“環境へのやさしさ”で、維持費の安さは“優れた経済性”といえます。それらが魅力となり、二輪車は使われているのです。



とくに原付1種、原付2種は省エネルギーで経済的



二輪車の車両購入を含めた運行費用を試算すると、1km走行当たり原付1種は12円、原付2種は16円です。こうした経済性を実現している二輪車の燃費のよさは、環境への優しさにもつながります。



二人で移動すればさらに経済的!

二輪車を5年間使用した場合の費用

	原付1種	原付2種	軽二輪	小型二輪
5年間の費用総計	303,070円	395,070円	701,350円	1,119,680円
1km当たり運行費	12円	16円	28円	45円

1) 費用総計: 車両価格、税金、自賠責、ガソリン等を含む。メンテナンス費用、車検費用、保管費は含まない。
2) 新車を購入し5年間で総走行距離25,000kmとした。ガソリン価格1リットル120円で計算。

二輪車は都市を迅速に移動することが可能

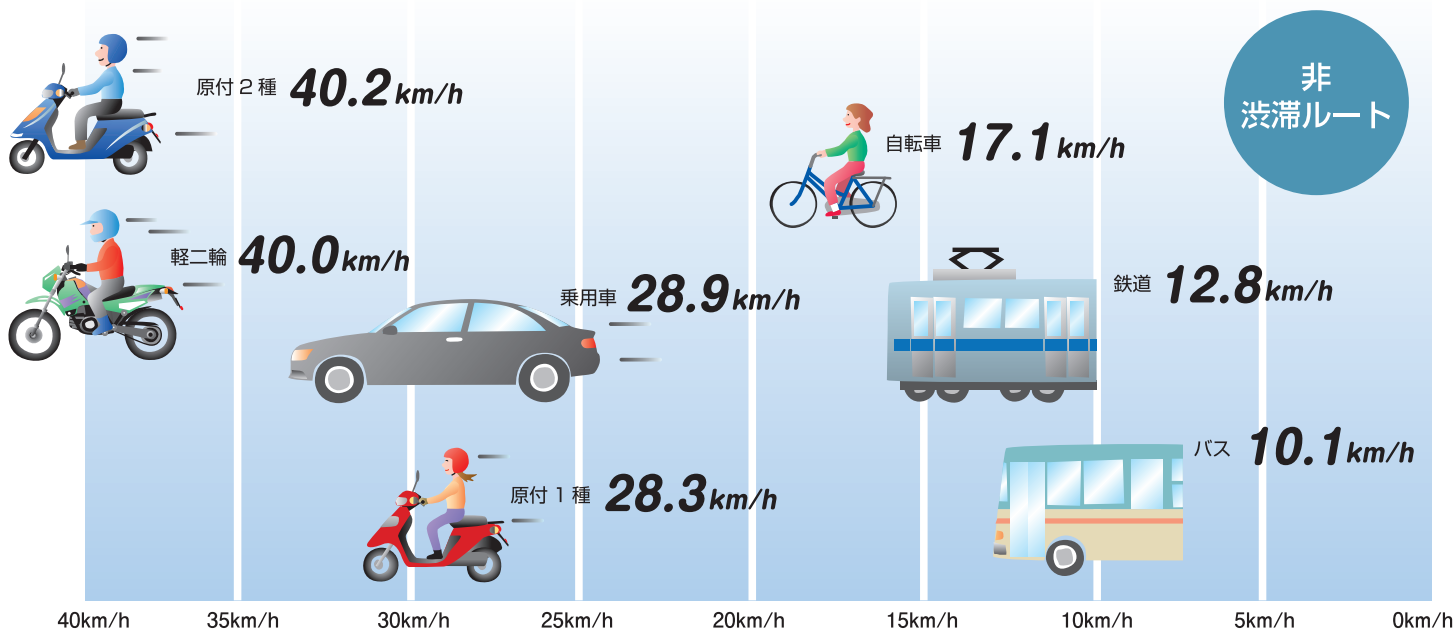
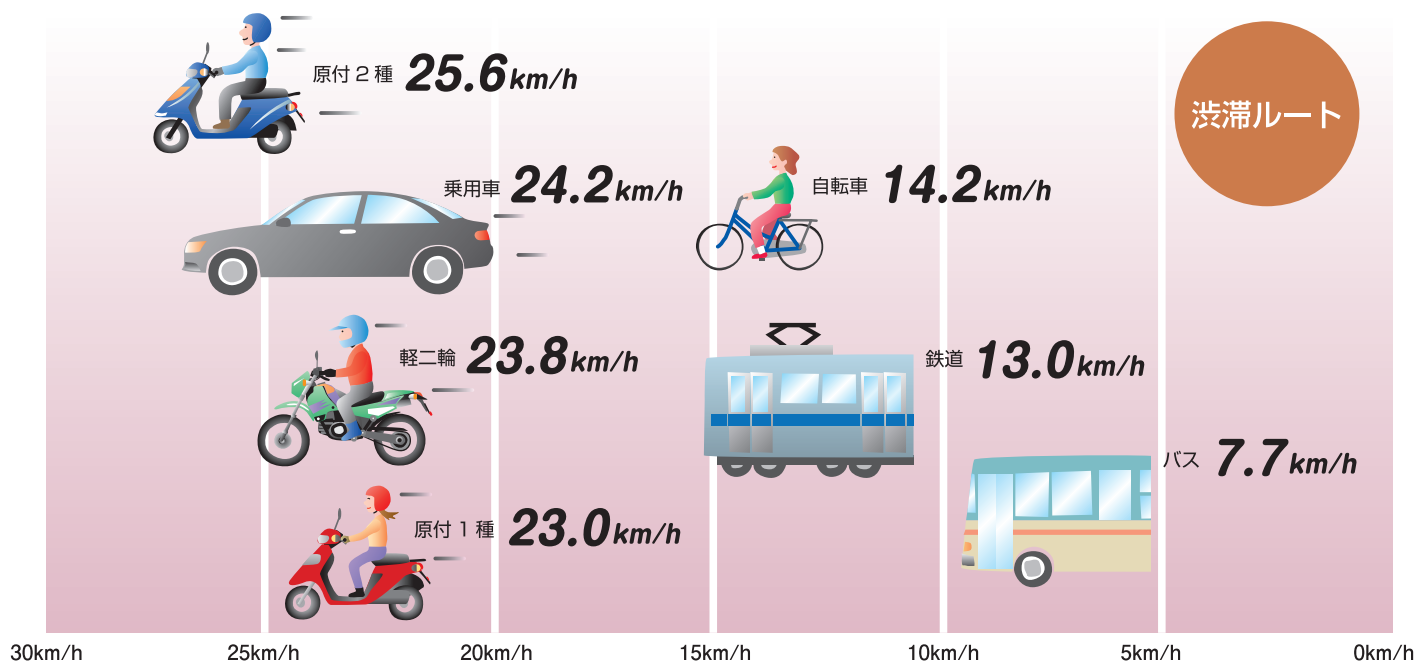
東京都内の道路で、二輪車(原付1種、原付2種、軽二輪)、乗用車、自転車、鉄道、バスの旅行速度を実測調査したところ、二輪車が最も速いという結果となりました。とくに原付2種と軽二輪は同等に速く、最も迅速な都市交通手段といえます。

迅速性=効率的



実測データ

交通機関別旅行速度調査の結果



【渋滞ルート】

上下線とも朝、昼、夕方の上の時間帯以上で平均旅行速度が20km/h未満の区間。東京・三原橋交差点—上野駅前交差点(3.4km)で実施

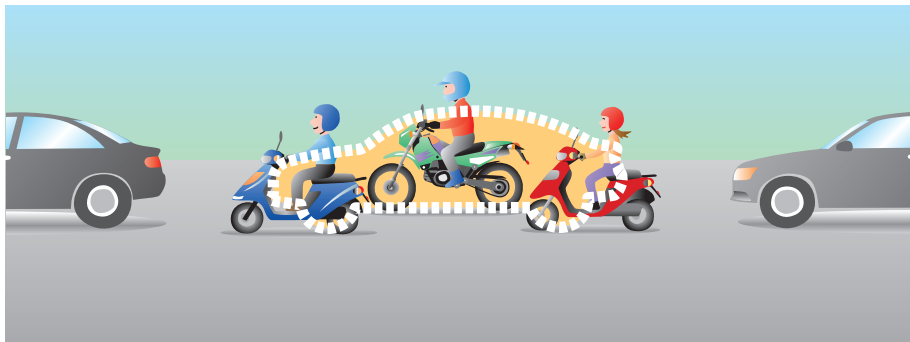
【非渋滞ルート】

上下線とも朝、昼、夕方の上の時間帯以上で平均旅行速度が25km/h以上の区間。東京・等々力不動前交差点—武蔵新田駅前交差点(6.74km)で実施

※この調査結果は、朝、昼、夕方それぞれの時間帯で計測した結果のうち、乗り物ごとに平均旅行速度が最も速かったサンプルを示しています。

二輪車の利用促進で交通渋滞が緩和

二輪車は車体がコンパクトなことから、占有する走行スペースや停車スペースが小さく、その利用促進によって、道路空間に余裕が生まれます。そのぶん交通が円滑になり、交通渋滞が緩和されることも期待できます。



※「21世紀の交通社会における二輪車の役割に関する研究」 1999年3月 日本自動車工業会

円滑化＝省エネルギー



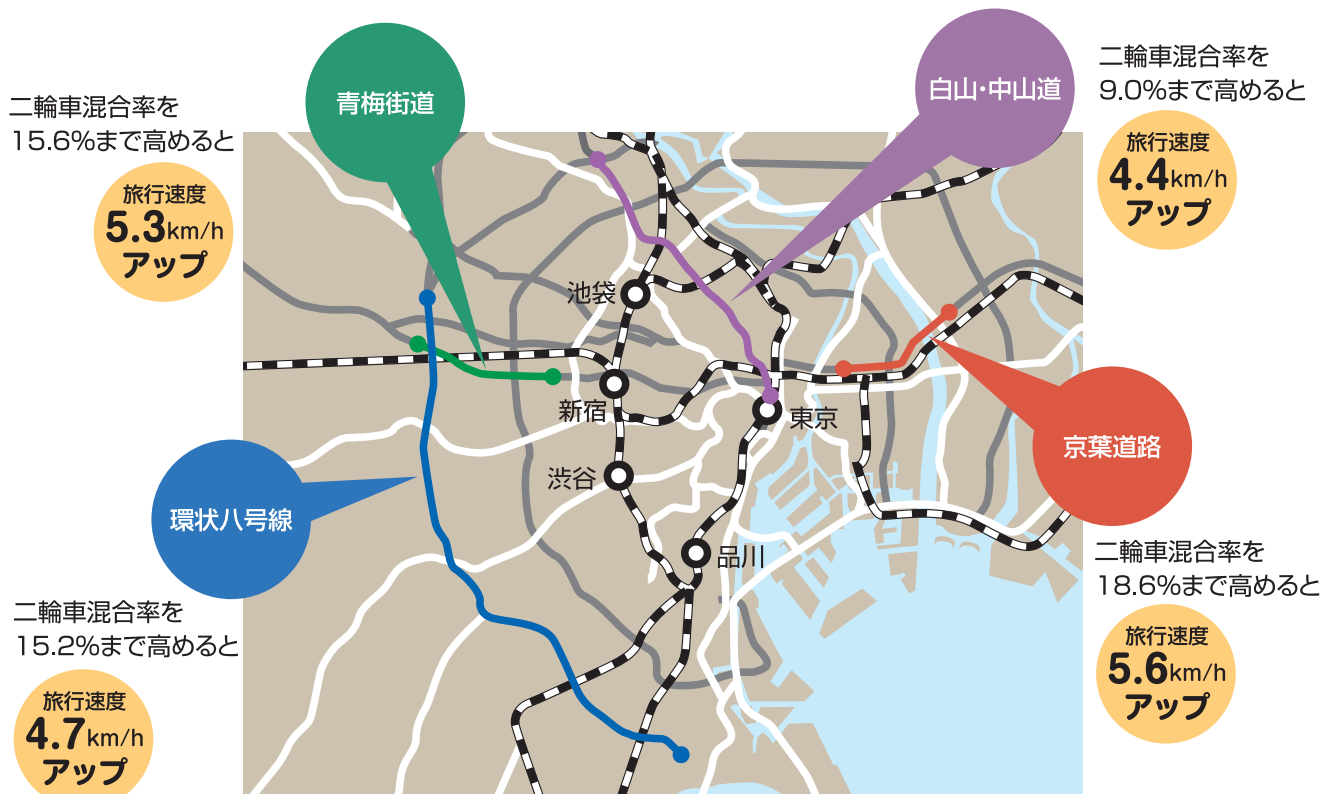
自動車1台の走行空間は、二輪車3台の走行空間に等しいと考えられます。

シミュレーション

二輪車混合率を高めた場合*の平均旅行速度の変化

*注:交通量のピーク時の自動車の一部を二輪車と使い分けることで、全体の交通量に占める二輪車の割合を高める。

東京都内で交通渋滞している路線において、二輪車の混合率を高めるシミュレーションを行うと、交通の流れが円滑化され、交通全体の平均旅行速度が上昇するケースがあります。



1)「交通工学ハンドブック」等の資料から、道路容量に関する二輪車の乗用車換算率を0.33として計算。

2)「警視庁交通年鑑 平成17年版」から各路線の時間帯別平均旅行速度を、「平成17年度 道路交通センサス」から各路線の時間帯別交通量を抽出した。

これからの交通社会における二輪車

原付2種が最も効率的な生活モビリティ

地球環境等に配慮した効率的な交通体系が求められる社会において、二輪車の有用性は大きいに役立ちます。とりわけ原付2種は、原付1種並みの軽量コンパクトな車両特性をもった通勤用です。なおかつ動力性能にも余裕があり、都市内の

移動では自動車の流れに合わせた走行が可能ならうえに、渋滞の影響を受けにくい迅速性があります。また移動距離当たりのコストも非常に少ないなど、都市における交通手段として、原付2種は、最も効率的な生活モビリティです。

原付2種のメリット

原付1種と同等のコンパクトさ

都市内を移動する迅速性はナンバーワン

自動車と同じ法定最高速度

きわめて優れた経済性

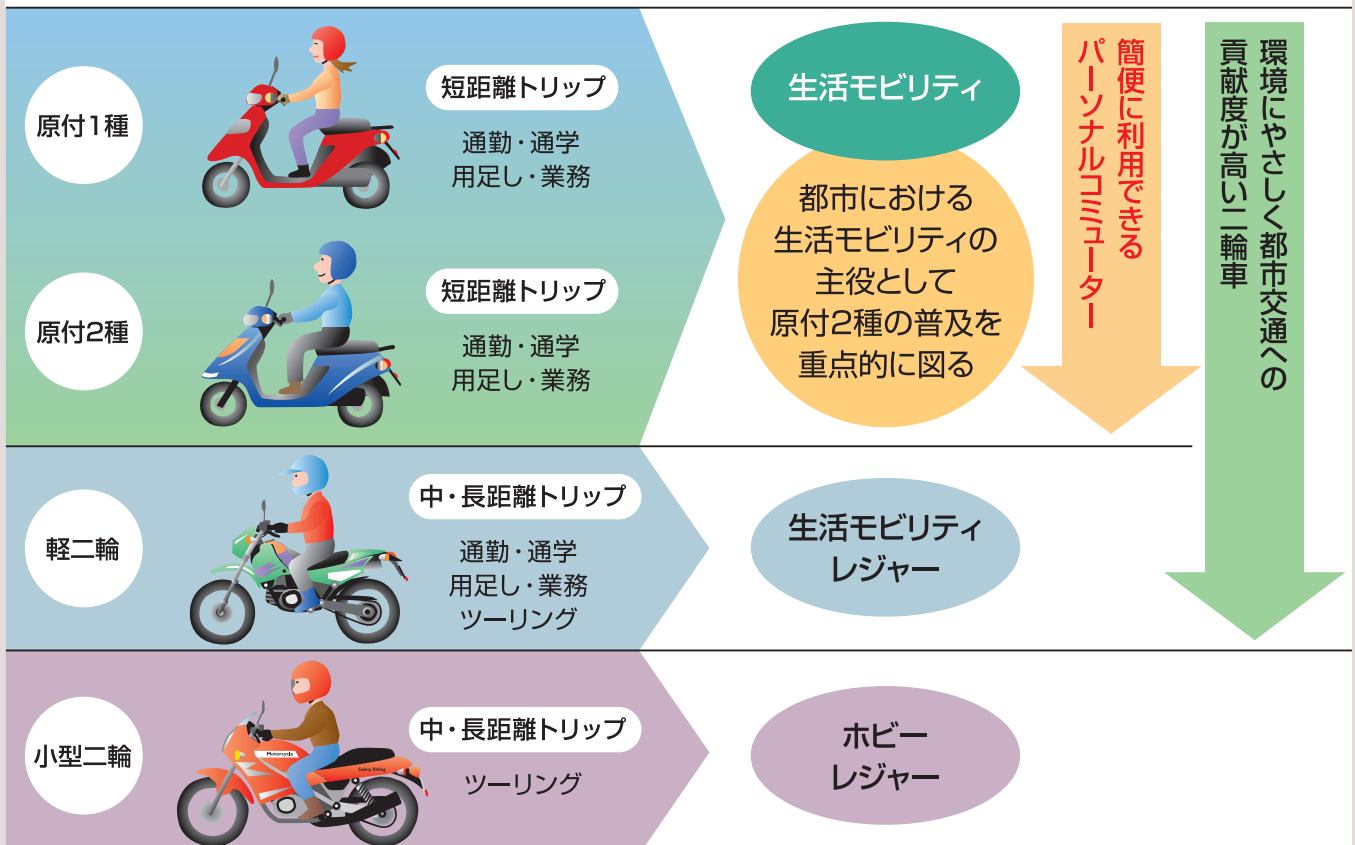
二段階右折が不要

二人乗りが可能

原付1種と同様ファミリーバイク特約保険が使える



環境にやさしく効率的な交通社会 新しい二輪車普及イメージ



二輪車を有効活用するために必要な施策

提言

一般ドライバーに対して「どのようにすれば二輪車を使うようになるか」という点を調査したところ、「免許取得がいまより簡単になること」「駐車場所、保管場所が確保できること」などの項目を挙げる人が多く、いっそうの二輪車利用環境の向上が求められます。



二輪免許取得の容易化

市民の生活の足となっている二輪車の運転免許は、ライダーの安全を支え、また、身近なライセンスとして暮らしを支えるもの。免許取得が市民の負担になりすぎないように、二輪免許全体について教習時間の短縮を図るなど、見直しを行うことが求められます。



駐車スペースの確保

二輪車の有用性を社会に活かすためには、不足している二輪車の駐車場を早急に整備する必要があります。既存の自動車駐車場の空きスペースを利用した駐車設備や、路上駐車スペースの増設が求められます。



走行スペースの確保

二輪車は車体がコンパクトなことから、少ないスペースで走行できます。道路幅に余裕のあるところでは二輪車専用レーンを設置したり、バス専用レーンのあるところでは、バスと二輪車の共用レーンとするなど、二輪車の走行環境を改善することで、道路交通の効率化を図ることができます。



二輪車利用促進の社会システム

環境にやさしい交通社会を目指して、人々が二輪車を積極的に利用したくなるような環境づくりが必要です。行政や企業が二輪車の有用性に着目し、率先して利用機会を設けるなど、社会的に二輪車の活用を促すシステムが求められます。

《二輪車の利用を促す取り組み例》

1. 渋滞緩和など交通部門の環境対策における二輪車の利用推進
2. 通勤・通学における二輪車の利用促進
3. 災害発生を想定したリスク管理における二輪車活用
4. レンタルバイクを活用した観光地などでのバイクシェアリング

二輪車を
取り巻く
環境

二輪車の利用環境デザイン

効率的な交通社会を目指して
要約版



JAMA

社団法人 日本自動車工業会

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館
URL <http://www.jama.or.jp>

© Jan.2010